

令和6年能登半島地震から11か月が経過しました。穴水町では現在、石川県を含む全国の自治体から30名以上の職員が応援に駆けつけ、災害対応にあたっていただいております。今回の災害対応にあたって、支援してくれた応援自治体・応援職員、そしてボランティアの皆様には感謝しかありません。

今回の経験を通じて、改めて気づかされたのは、「人」の重要性です。膨大な業務をこなし、住民の方々を支えてくれたのは、まさに「人」の力でした。少子高齢化や人口減少が進む中、「効率化」という言葉が頻繁に飛び交います。行政の効率化、組織の効率化、業務の効率化。結果、できる限り少ない人員でやりくりすることが評価されることになっているように思います。平時は大丈夫ですが、災害などの非常時には人手不足のリスクを抱えることになる可能性があります。数の問題か、質の問題か。難しい問題です。

これまで穴水町においても、少子高齢化や人口減少という課題を抱えながらも、住民サービスの向上と持続可能なまちづくりを実現するために、様々な取り組みを進めてきました。しかし、今回の災害は、私たちが抱える課題の深刻さを改めて浮き彫りにしました。

これからの穴水町には、限られた資源の中で、いかに「人」を大切にし、その力を最大限に引き出すかが問われています。それは、職員一人ひとりの能力開発やモチベーションの向上はもちろんのこと、地域住民との連携を強化し、多様な主体が参画する協働のまちづくりを推進することでもあります。

また、今回の災害は、地域社会のつながりの大切さを再認識させてくれました。地域住民、ボランティア、行政、そして企業など、様々な主体が力を合わせ、困難を乗り越えていく。そのような強固なつながりを築いていくことが、これからの穴水町を支える力となるでしょう。少子高齢化や人口減少という課題は、決して容易に解決できるものではありません。しかし、困難な状況だからこそ、私たちには大きなチャンスも存在します。それは、より良く、より住みやすいまちを創り上げていくという、新たな未来を切り開くチャンスです。

人こそが最大の財産であり、持続可能なまちづくりの鍵であることを肝に銘じ、私たちはこれからも地域全体の力を結集し、明るい未来に向かって進んでいきたいと思えます。